

科目名	情報処理Ⅱ Information Processing Ⅱ			担当教員	徳永 秀和		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	14133026	単位区分	履修単位
学習目標	オブジェクト指向プログラミングの基本思想を認識でき、ポリモーフィズムを実現したプログラムについて説明できる。UML を利用した簡単な java プログラミングができる。C言語のビット演算、ポインタ、構造体を説明できる。数値解析とはどのようなものか認識し、初歩的なアルゴリズムを認識できる。						
進め方	講義と演習により理解する。サンプルプログラムや演習問題は共有フォルダに置く。プログラミング能力を身に付けるためには、自分の考えたことを書き、実行し、その実行結果を考察することが重要である。そのためには、開発環境に慣れることが必要であり、指を動かすこと、質問をすることを怠らないことが重要となる。プログラミングの情報はインターネット上に豊富にあるので、自主的に調べることが大事である。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス(1) 2. C言語 (13) データ型, 出力, ビット演算, 型とポインタ, 配列とポインタ 構造体とポインタ, 構造体の応用			C言語のビット演算の簡単なプログラムを書ける。 C言語のポインタと構造体を説明でき、簡単なポ インタと構造体を使ったプログラムを書ける。 B(1)			
	[前期中間試験] (2) 試験答案の返却および解説(1)			クラスの定義の文法を説明でき、簡単なクラスのプログラムを書ける。オブジェクトの生成とメソッド呼び出しの文法と動作を説明でき、簡単なプログラムを書ける。クラスの継承の文法と継承の効果を説明できる。抽象クラスを用いたポリモーフィズムのプログラムを説明できる。 B(1)			
	3. クラスとインスタンス(5) 4. 継承とインタフェース(4) 5. ポリモーフィズム(4)						
	前期末試験						
	試験答案の返却および解説(1) 6. パッケージ (1) 7. UMLによるプログラミング(12)			ばば抜き仕様の仕様に基づく、クラス図、シーケンス図を認識できる。クラス図、シーケンス図と、プログラムとの対応を認識できる。 B(1)			
	[後期中間試験] (2) 試験答案の返却および解説(1)			誤差について認識できる。2分法、ニュートン法とオイラー法、ルンゲタック法のアルゴリズムについて説明できる。 B(1)			
	8. 数値解析(13) 誤差, 代数方程式 (2分法, ニュートン法), 常微分方程式 (オイラー法, ルンゲタック法),						
後期末試験							
試験答案の返却および解説(1)							
評価方法	4回の定期試験の成績が学習到達目標を満たしており、演習状況とレポートが良好であれば合格とする。成績は定期試験期ごとに、定期試験を80%、演習状況とレポートを20%で評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	情報処理Ⅰ（3年） → 情報処理Ⅱ（4年） → 情報処理Ⅲ（5年）						
教材	教科書：小森 裕介, なぜ、あなたは Java でオブジェクト指向開発ができないのか, 技術評論社, ISBN 978-4774122229 , ホームページとプリント						
備考	プログラム指定科目						

